

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	69	学校名	天竜高等学校	校長名	渡辺二三彦
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標は太字で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	学校評価	成果◎と課題▲
ア	基本的な生活習慣を確立し、時間、マナー、ルールを守ることができる生徒を育成する。	問題行動発生件数（年10件以内）	R4年度 10件 R5年度 11件 R6年度 17件	C	◎生徒課、学年、担任の連携ができた。 ◎家庭と協力した関係性を持たた。 ◎特別に全校集会を実施し、折に触れ校則やモラルの周知徹底を呼び掛けた。 ▲問題行動発生件数は目標より7件多い17件であった。 ▲多様な背景をもつ生徒への対応や予防的生徒指導が必要である。
		遅刻者数(前年比 20%削減)	R5年度 670件 R6年度 656件 (12%減) (2学期まで)	B	◎▲職員全体で指導をしており、前年度より少なくなっているが、生徒数も減っているため、様々な場面で時間厳守を徹底して指導していく必要がある。
		情報講座の実施（年1回） 使用状況調査導入	天竜警察署員による講話を実施した。 スマートフォン使用状況調査を実施した。	A	◎警察署によるスマートフォン安全教室、闇バイトの注意喚起を実施した。 ◎スマートフォンの利用状況を調査し、結果を担当が面談等に活かした。 ▲引き続き長時間使用や適切な利用への指導が必要である。
イ	爽やかな挨拶を励行するとともに、感謝の気持ちを素直に表現できる生徒、他の生徒の努力を認めることができる生徒を育成する。また、いじめ、迷惑行為、暴力行為を絶対に許さない雰囲気醸成する。	朝の特別挨拶運動（年5回）	毎朝風紀委員が当番制で行ったが、特別強化日は設定しなかった。	B	◎毎朝の挨拶当番の生徒が意欲的に挨拶していた。生徒が自然な挨拶をするようになっている。 ▲学期始めと学期末に当番の人数を増やすなど、更なる生徒全体の意識の向上を目指す。
		いじめ防止等の指導方法を学ぶ	人権教育に関する研修を実施した。	B	◎折に触れ、他人を尊重する大切さ等について生徒に呼び掛けた。
		ソーシャルスキルトレーニングをLHRにて行う。	各HRでLHR等において実施した。	B	◎限られた時間の中で、ソーシャルスキルトレーニングやいじめ、暴力をテーマにしたLHRを実施することができた。 ▲LHRの時間が少ないのが課題である。
		生徒面談実施（年2回） 学校生活アンケート（年1回）	面接週間を2回設定した。 アンケートを6月、12月に実施	A	◎面接週間以外にも日常的に面談を実施している。 ◎アンケートではGoogleフォームを活用して、生徒の状況を確認できた。 ◎教育活動に対する姿勢は肯定的な回答が多かった。 ▲さらに安心して学校生活を送れるように日ごろから面談や声掛けを丁寧に行う。

		HR ごとに MVP 表彰 (学期 1 回)	担任の協力を得て学期に 1 回表彰を行った。	A	◎ 1 年を通じて生徒が互いに尊重し合う雰囲気为学校全体としてつくり上げることができた。MVP の選出方法に工夫をするクラスも見られた。 ▲一部の真剣に取り組めない生徒への指導が必要である。
ウ	個々の実態に応じた学習指導の確立と、新学習指導要領を踏まえた授業改善を推進する。	授業が分かる と 答える 生徒 (80%)	生徒アンケート肯定回答 授業に意欲的 R5 88.9% R6 91.4% 授業がよくわかる R5 84.6% R6 83.9% 授業に満足 R5 86.5% R6 88.4%	A	◎昨年度より授業に意欲的な生徒、満足していると回答する生徒が増加している。 ◎ICT 活用やグループワーク、プレゼンテーションなどにより言語活動が充実している。(生徒回答 90%) ▲授業がよくわかると回答する生徒が 0.7%減少している。 ▲多様な生徒への個に応じた指導が必要である。
		2, 3 年生において前年 4 月成績と比較し D 層の生徒が減少する。	【1 学年】D3 ゾーンは昨年度 1 年生より 5 名減少し、D ゾーン全体としては 5 名減少した。 【2 学年】「D3 ゾーン」は昨年度より 10 名増加した。D ゾーン全体では変化がなかった。 【3 学年】「D3 ゾーン」は昨年度より 5 名増加した。D ゾーン全体では 6 名減少した。	B	◎中間報告を全校集会で生徒にフィードバックすることができた。 【1 学年】 ◎ほとんどが落ち着いた雰囲気です授業を行えている。学習時間の必要性は理解している。一部の落ち着きのない生徒に対し適切な指導が行えた。 ▲日々の家庭学習が習慣化されるまでに至っていない生徒が多い。 【2 学年】 ◎全体一律の課題については、教員の呼び掛けや指導もあり取り組む生徒が増えた。 ▲個々、特に D ゾーンの生徒の自主的な家庭学習が定着していない。 ▲数学を履修していない生徒へ課題は出しているが、授業で解説ができないため、アプローチが難しい。 【3 学年】 ◎各教科の先生方の粘り強い指導や担任の励ましのおかげで D 層が減少した。 ▲数学は履修していない生徒へ課題は出しているが、授業で解説ができないため成績の向上が難しい。
		各生徒が、スタディサプリの確認テストに年 20 回以上取り組む。	各学年年 20 回以上取り組んだ。	A	◎1、2 年生は毎週木曜日の朝学習の時間に取り組んだ。(全 26 回予定) 生徒は真剣に取り組んでいる。
		スタディサプリの確認テストマスター数が全校平均 80%	各学年確認テストマスターになるまで繰り返し取り組んだ。(97%)	A	◎教務科からテストマスターになるまで取り組むよう呼び掛け、複数回の実施を促した。 ◎業者の分析でも活用率が高かった。

		以上			
		ロイロノート、スタディサプリ、グループクラスルームを活用した授業を実施する教員 (80%)	1年をかけ、ほぼすべての教員が授業で活用するようになった。	A	◎ICTの活用など校内の状況を考えテーマを設定することができた。 ◎校内研修会参加率は90%以上だった。 ◎新しいアプリの導入など、工夫されたICTの活用や共有が大幅に進んだ。
エ	授業、学習発表会、面接指導等を通じてコミュニケーション力を育成する。	コミュニケーション力アップを実感する生徒 (80%)	生徒アンケート肯定回答(86%)	A	◎新課程の学習指導要領の内容に準じて言語活動を取り入れた授業を行うことができた。 ◎授業での発表経験が、総合的な探究の時間で生かされていた。
		3年就職希望者の面接指導 (年5回)	外部指導者(ハローワーク、PTA等)の面接指導を3回、教職員のチューター制面接を計5回以上行った。	A	◎進学・就職希望者に面接指導担当をつけることで面接指導を丁寧に行った。面接力が低い生徒には、外部受験産業と協力し、個別に指導を行った。
オ	語彙力、理解力、集中力を高め、柔軟な人間性を育む読書教育を推進する。	朝読書を(原則として毎日)実施するとともに、図書館の年間貸し出し冊数を前年比1.1倍にする。	朝読書はほぼ計画どおり実施 8時25分からのBGMも朝読書実施の有無にかかわらず実施した。選考会、文化講座は充実した内容で実施できた。図書館の貸し出し冊数は、4月～12月の9か月間で536冊(R5 389冊)で昨年比1.37倍を達成	A	◎より多くの生徒に図書館を利用してもらうことができた。 ◎天竜文学賞選考会は、短期間にも関わらず課題図書を読み、作品の魅力を掘り下げる選考会を行うことができた。 ◎天竜文学賞では受賞作家と編集者の話を聞き、文学への関心が高まった。今後は情報機器の活用などで、より多くの生徒に参加させたい。 ▲8時25分からのBGMによって体制が整うクラスを増やしていきたい。朝読書の時間は生徒指導等を行わないように通知する。
カ	個々の目標を明確にし、個に応じたきめ細やかな進路指導を推進する。	進路希望調査 (年2回)	進路希望調査(2回)進路ガイダンス実施	A	◎1、2年生は進路希望調査を3回実施し、指導に活かした。 ◎進路希望調査をもとに、1年次生には体験型の進路探究授業を、2年次生には分野別のガイダンスを実施するなど、早期からの進路指導体制を構築した。
		就業探究の実施	7月に2年生が実施した。	B	◎地域の企業等の協力を得て2年生の時期に実施することができ、生徒の進路意識の向上に役立っている。 ▲学年と分掌との業務分担が不明確で、相互に難しさを感じた。受け入れ企業等に一部ご迷惑をかけてしまった。来年度に向けてマニュアルを作成する必要がある

		就職内定率 (100%)	学校推薦における就職内定率 (96.7%) (12月現在)	A	◎学年部を中心に、就職指導体制を構築することができた。 ◎進学希望から就職希望に変更があった場合も、生徒の希望に応じて企業を選定し試験に向けた指導ができた。
		希望進路達成率 (90%)	進路(進学)達成率(93.8%) (12月現在)	A	◎担任を中心に、受験形態の選定、指導を展開した。 ▲今後は推薦・総合型選抜といった多様化する受験形態に応じた指導体制の充実を図っていく。
キ	学校行事、ホームルーム活動、清掃、部活動に積極的に参加する生徒を育成する。	意欲的に取り組んだと答えた生徒 (85%以上)	生徒アンケート肯定回答(93.2%)	A	◎生徒会が体育大会で独自種目やアンケートを実施したり、提案・呼びかけ等を行ったりするなど主体的な取り組み見られた。 ◎学校行事を大切に作る姿勢がみられた。 ◎文化祭やLHRでは生徒が目的を持って意欲的に取り組んだ。
		部活動に一生懸命取り組んだと答える生徒 (80%以上) 年度当初に設定した目標を達成する部活動 (70%以上)	生徒アンケート肯定回答 (86.6%) 年間休養日 100日以上取得部活動(95.8%) 効果的に休養日を設定することができた。 年度当初に設定した目標を達成した部活動 (91.7%)	A	◎今年度から2、3年生は部活動への登録を自由としたが、多くの生徒が部活動に継続参加し、積極的に活動ができた。 ◎ほぼすべての部活動でガイドラインに準拠した活動を行った。
		清掃活動 (週3回)	週3回行い、校内美化に努められた。 分別の呼び掛けはできたが、分別の徹底はできなかった。	B	◎生徒、職員に呼びかけ、限られた時間の中で行うことができた。 ◎保健厚生委員会を通して箒をフックに掛けるなど、清掃用具の管理をすることができた。 ▲分別方法の周知を行ったが、徹底は難しかった。
ク	地域活性化に取り組み、ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する生徒を育成するとともに、地域との連携、系列・類型間での連携を積極的に行なう。	天竜クリーンボランティア (2回)	天竜クリーンボランティアとしては、1年生の「産業社会と人間」で、その他、ボランティア部が毎月、部活動で随時、実施することができた。	B	◎昨年度の反省を踏まえ、エリアが広域にならないようにするとともに、回収するごみを指定したため、円滑に実施できた。 ◎野球部が地域の方々の清掃活動に複数回参加するなど、日ごろから連携や交流が行われている。 ▲学校全体でさらなる推進体制を検討している。
		地域との連携講座(年3回) 近隣の保育園・小学校等との交流(年6回)	天竜商工会を中心に、天竜区役所、天竜区観光協会、天竜厚生会などと連携を深めた。(年45回実)	A	◎様々な科や教科で地域連携を題材とした授業実践があった。 ◎地域は本校に対して協力的である。継続的な活動ゆえなので、引き続き途切れることなく地域に貢献する学校であり続けることが重要である。こうした取り組みの際、管

			施) 杉の子保育園との交流活動全7回実施した。		理職からの地域への声掛けが重要である。 ◎「農業体験交流」をやまびこ保育園と杉の子保育園の園児を迎えて行った。 ▲地域協働センターと各教科や分掌とのさらなる効果的・効率的な連携を検討する。
		「天竜区の未来を考える若者会議」の実施(年3回) 「天竜ラボ」の活動推進(年3回)	「天竜区の未来を考える若者会議」を3回開催した。「天竜ラボ」は年11回活動した。三遠南信の高校とつながりを作ることができた。	A	◎浜松市と連携協定を締結することができた。今後新たに地域連携を拡充させていきたい。
		検討会議(年3回) 類型、系列連携活動の実施(3組)	学習発表会を3学科連携事業として開催した。検討会議を年4回実施した。	A	◎系列・類型に加え、有志での参加も増えた。 ◎全学年の参加、校外への公開、展示発表の追加など、新しい形で実施した。 ◎福祉科主催の「クリスマス会」にて森林・環境科と連携し、箸の製作をした。 ◎福祉科の生徒が1年介護体験実習で総合学科と森林・環境科の生徒に実演や説明を行った。 ▲3学科併設の強みをさらに模索する必要がある。
ケ	生徒の学校生活を支えるため、健康教育活動を推進する。	朝食摂取率(90%以上) 各種疾病治療率(65%以上)	10月末の朝食摂取状況調査は90.7%だった。(生徒アンケート結果は88.7%) 疾病治療率 内科79%、 歯科59%、 視力69%、 眼科100% 耳鼻科83%、 尿検査100% 心電図100%、 貧血検査71%	A	◎疾病治療率を上げるために学年主任にも協力を依頼し、個別指導を積極的に行った結果、治療率が大幅に増加した。今後もこの方法を継続するとともに、早期受診につながるような声掛けの工夫をする。 ▲朝食摂取状況が0.8%減少した。引き続き、委員会活動等で声掛けを行う。
		ケース会議の実施(年2回以上)	ケース会議を年8回実施した。4名の個別の指導計画を作成した。振り返りのケース会議も実施し、次年度や卒業後を見据えた支援方法を模索した。職員会議等を通して、全職員で情報を共有した。	A	◎保健室頻回来室者(10日以上)が、R5は36人 R6は37人であるが、20日以上頻回来室者がR5の11人からR6は6人と減少した。 ◎日々、担任や学年主任と情報共有を行い、指導に活かした。 ◎通級指導を希望する生徒への指導体制を整えられた。 ◎困っている生徒をスクールカウンセラーにつなぎ、専門家の見立て等を職員間で情報共有し、指導に活かすことができた。相談シートを活用してスクールカウンセラーにつなげる前の生徒の心身の状況把握に活かすことができた。 ▲今後は希望人数が増加した時の教員

					負担を軽減する工夫を検討する。
コ	保護者、地域に信頼される学校づくりを推進するため、本校の特色や教育活動を積極的に情報発信する。	PTA活動(年8回)	PTA役員による朝の交通指導(年2回)、就職面接指導、学校保健委員会への参加など連携した教育活動を15回実施できた。	A	◎PTA役員会を開催し、役員との意思疎通を行った。特に3年生の就職面接指導は、全学年のPTA役員に協力を求め、充実した内容にすることができた。
		学校だよりの発行(年10回)学校説明会開催(年2回)	「学校だより」を10回発行した。中学生一日体験入学(8月)、学校説明会・授業見学会(10月)を開催した。	A	◎「学校だより」をホームページ、保護者への配信、クラス掲示、地域の回覧板で広報することにより本校の教育内容の発信力を強化した。 ◎学校説明会(計2回)の参加者は、中学生267名、中学生保護者194名で昨年度より増加した。(計461名)事後アンケートでは、「参加して良かった」との回答がほぼ100%であり、本校の魅力を発信できた。
		ホームページの更新(随時)	ホームページを192回更新した。学校ホームページのシステムを刷新し、見やすく編集した。	A	◎学校ホームページのリニューアルを行い、見やすくなり、更新回数が増えている。 ◎Google Driveを使用し、記事の書き方を分かりやすく示すことで、部活動、教科、分掌の協力を得ることができた。
サ	教職員の資質向上を図るとともに、働き方に関する意識改革を推進し、業務分担の適正化を図る。	校内研修会(年2回)	ICT活用などテーマに3回実施(12月現在)	A	◎参加率も良く、主体的に学びあう研修ができた。 ◎研究授業週間では、ICTの活用を取り入れた授業など工夫された授業が多く見られた。
		不祥事根絶研修(月1回)	職員会議で月1回実施	A	◎県の「コンプライアンス強化月間取組」を利用できた。同時にGeneralistによる研修の受講方法も周知できた。
		定時退勤の実施週1回 夏季休暇取得促進期間の休暇取得率(75%以上)	完全退勤20時、定時退勤日を推進した。 夏季休暇取得促進期間休暇取得率88.2%	A	◎完全退勤時刻を20時、月曜日を定時退勤日とし、呼び掛けを行った。 ◎ストレスチェックの職場としての総合評価は良好であった。
	業務総量が削減した分掌の割合(80%以上)	業務削減をそれぞれの分掌・課において検討、実施した。	A	◎「シン・リバイス天竜」による業務の見直しが行われた。 ◎2年次からの部活動の加入任意化、文書のデータ化など業務の削減が具体的に行われている。 ◎採点システム「百問繚乱」の活用が進んでいる。 ▲半面、新しい事業導入による業務増加の懸念もある。	

様式第3号

					▲職員数減に向けてさらなる業務削減を検討する必要がある。
シ	危機管理体制及び「命を守る教育」の充実を図る。	重大交通事故発生件数 (0件) 街頭交通指導(年10日)	重大交通事故発生件数(0件) 街頭交通指導10日実施	A	◎自転車指導カードの指導は昨年度140件、今年度66件と大幅に減少した。内訳の中で一旦停止違反が52件と最も多い。 ◎▲3件の事故が発生した。その内、重大事故は発生していない。 ◎自転車並進の苦情があり、生徒課で特別登校指導を実施した。
		防災訓練 (年2回)	防災訓練を2回実施した。第2回の防災訓練は、天竜消防署と連携した緊急対応訓練を実施した。	A	◎避難訓練を年2回(4月、11月)立案・実施した。内容、実施方法等を精査し、実効性の高い訓練となった。 ◎教職員対象の「校内防災ツアー」(5月)を行い、防災設備・備蓄食料の点検を実施できた。
ス	効率の良い業務遂行、業務改善に努め、安全・安心な教育環境の整備充実を図る。	定期的な検査等 (指摘0回)	会計処理に関し、指導検査等において、指摘に該当する項目は0件であった。	A	◎事務室内で、再度法令規則や通知等を確認し、知識等を共有するなど、誤りのないように事務処理を進めていく。
		施設設備の点検(月2回)	技能員を中心に施設設備の点検を月2回実施した。	A	◎定期的な点検や、教職員とのコミュニケーションを図ることで情報収集するなど危険個所の早期発見に努め、安全・安心な教育環境整備を行った。
		危険箇所の確認、迅速な修理による危険回避(随時)	危険個所の確認を速やかに行い、迅速な修繕を心掛けた。	A	◎危険個所への対応はできる限り速やかに行った。